

令和7年第2回蓬田村議会定例会会議録（第2号）

開 会 令和7年6月11日

閉 会 令和7年6月13日

開催場所 蓬田村議会議事堂

第2日（6月12日）

出席議員 8名

1番	坂 本 豊 君	2番	久 慈 省 悟 君
3番	川 崎 憲 二 君	4番	柿 崎 裕 二 君
5番	森 弘 美 君	6番	吉 田 勉 君
7番	乳 井 巖 公 君	8番	小 鹿 重 一 君

欠席議員 なし

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

村 長	久 慈 修 一 君
副 村 長	小 松 生 佳 君
教 育 長	吉 崎 博 君
会 計 管 理 者	木 村 伸 一 君
総 務 課 長	稲 葉 正 明 君
税 務 課 長	吉 田 聡 君
住 民 課 長	藤 本 正 人 君
健 康 福 祉 課 長	高 谷 久美子 君
教 育 課 長	八木澤 琴 美 君
産 業 振 興 課 長	高 田 一 憲 君
建 設 課 長	高 田 徹 君
総 務 課 調 整 監	八 戸 慎 幸 君

職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議 会 事 務 局 長

中 川 孝 治 君

議 会 事 務 局 次 長

蒔 田 千 草 君

会議で定められた会議録署名議員の氏名

5 番

森 弘 美 君

6 番

吉 田 勉 君

議事日程（第 2 号）

第 1 一般質問 7 番 乳井厳公 議員

第 2 一般質問 3 番 川崎憲二 議員

第 3 一般質問 2 番 久慈省悟 議員

午前9時43分 開議

○議長（小鹿重一君） おはようございます。

ただいまの出席議員は8名で定足数に達していますので、これより本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問 7番 乳井巖公議員

○議長（小鹿重一君） 日程第1、一般質問を行います。

今回の一般質問の通告は3名です。通告順に一般質問を行います。

7番乳井巖公君の質問を許します。乳井巖公君。

○7番（乳井巖公君） おはようございます。7番乳井です。今日は消防関係について大きく2点質問させていただきます。

初めに、消防団員への免許取得費用の助成についてです。

現在、普通免許を取得した場合、車両総重量3.5トン未満、総積載量2トン未満の車の運転しかできないことになっております。これは平成29年3月の改正によるものです。これに伴い、2トントラックの運転を行う場合、準中型免許の取得が必要となっておりますが、村に配備されている小型動力ポンプ付積載車は全て2トン車となっております。このことから、村消防団員で準中型免許の運転資格を有さない団員は何名いるのか伺います。

○議長（小鹿重一君） 総務課長。

○総務課長（稲葉正明君） お答えいたします。

令和7年6月1日現在の消防団員数は109名です。団員名簿から平成29年3月改正後に普通免許を取得した消防団員は6名で、そのうち準中型免許を取得している方が4名いることを分団に確認を取りました。準中型免許の運転資格を有していない団員は2名です。

○議長（小鹿重一君） 乳井巖公君。

○7番（乳井巖公君） 2名いるという回答でありましたが、これから入ってくるであろう若い方も含めれば、2名以上になるのかなという気もしますが、それを踏まえまして、この消防団員に対しまして準中型免許取得の際の費用を村で助成すべきと考えますが、どうでしょうか。

○議長（小鹿重一君） 総務課長。

○総務課長（稲葉正明君） お答えします。

今後、消防車両を運転できる団員を育成するために、消防団員準中型自動車運転免許取得助成事業の要綱を作成して進めていきたいと思っております。

○議長（小鹿重一君） 乳井厳公君。

○7番（乳井厳公君） 早急に対応いただけるようお願い申し上げます。

それでは、2つ目の質問に移ります。第四分団屯所の改修工事についてです。

3月の予算特別委員会において、第四分団屯所改修工事は、4月の建築基準法の改正を受けて申請書類を確定次第、予算計上を行いたいという回答があったと思っております。これを受けまして、現在の状況はどのようになっているのか伺います。

○議長（小鹿重一君） 総務課長。

○総務課長（稲葉正明君） お答えいたします。

令和7年4月の建築基準法の改正を受けて、第四分団屯所改修工事は、2階建て以上または延べ面積200平方メートル以上に該当するため、建築確認申請が必要になりました。確認申請書と図面、構造関係規定等の図面、省エネ関連の図面の提出が必要です。

4月から2か月経過していますが、改修工事の確認申請を受ける側に建築確認申請が出されていない状況で、どのようにすればよいか課題があるようです。9月の定例議会に設計業務の予算を計上できるよう努めてまいります。

○議長（小鹿重一君） 乳井厳公君。

○7番（乳井厳公君） 設計業務の予算計上ということは、今年度の改修にはならないということでしょうか。

○議長（小鹿重一君） 総務課長。

○総務課長（稲葉正明君） 設計をやってから工事になります。その前に工事の予算の計上もしなければならないので、今年度は設計だけということになります。

○議長（小鹿重一君） 乳井厳公君。

○7番（乳井厳公君） 今年度は設計だけというのは分かりました。そうすれば、今後の残りの改修されていない分団も含めて、改修予定はどのようになるのでしょうか。

○議長（小鹿重一君） 総務課長。

○総務課長（稲葉正明君） お答えします。

屯所の改修または新築工事の順番は、第四分団、第一分団、第二分団、第三分団、第七分団の順で進めていく予定です。令和8年度に第四分団の工事ができるよう取り組ん

でまいりたいと思っております。

○議長（小鹿重一君） 乳井厳公君。

○7番（乳井厳公君） 令和8年度に第四分団から確実にできるように、調整のほどよろしく願いいたします。

以上で、私からの質問を終わります。ありがとうございました。

日程第2 一般質問 3番 川崎憲二議員

○議長（小鹿重一君） 日程第2、3番川崎憲二君の質問を許します。川崎憲二君。

○3番（川崎憲二君） おはようございます。今回は通告した、村外から集客できるイベントの開催について質問をしたいと思います。

令和7年度、村では2つくらいのイベントを計画していると以前に担当課から説明がありました。

昨年のイベントとしては、よもぎた玉松ビーチバレー大会、海まつり、村民祭。海まつりの天候がよければそこそこ集客はありますが、以前のような集客ではないと思っています。村民祭についても年々集客は減っているのかなと感じています。

他町村ではいろんなイベントを開催して、恒例行事として定着しているイベントもたくさんあります。今別町では、荒馬まつりが参加型の観光として県外からも来ている方が多いと聞いています。

他町村と比べても、蓬田村は目玉となる観光資源が弱いことから、村外から集客できるイベントが少ないです。そこで、来年度開催される国民スポーツ大会の機会を活用し、当村が会場になっているモルックのイベントを開催してはどうかと。

モルックについては、社会福祉協議会のほうが普及を目指しており、今年度、何かイベントを計画しているみたいです。村としても取組を模索していると聞いています。また、テレビ番組でも取り上げられ、村民祭でも体験コーナーを設けたり、昨年の蓬中祭では3年生より村に要望もありました。

かつて村では、観光協会が事務局となって、青森米CUPのデュアスロンinよもぎた大会が何年か開催され、村外、県外からもかなり参加があり、にぎやかさがあったイベントもありました。

この国民スポーツ大会の会場となったチャンスを生かしてですが、モルックのイベントに村内外からの参加を募って大々的に開催し、これを毎年続けることで恒例の行事と

して定着し、観光誘致に大きく貢献できると思いますが、どうでしょうか。

○議長（小鹿重一君） 教育課長。

○教育課長（八木澤琴美君） お答えします。

モルックに関しては、今年度、子供会のリーダー研修、婦人会の交流会、子供会冬季レクリエーション大会での老人クラブとの交流試合等、様々なイベントで開催される予定となっております。

また、来年度開催の国民スポーツ大会でのモルック競技の会場地ということで、村民祭でもモルックブースを用意し、幅広い世代に親しんでいただけるよう紹介していく予定です。

議員のおっしゃるとおり、国民スポーツ大会を大いに盛り上げていくためにもとてもよい機会だと思っておりますので、まずは今年度、村の社会福祉協議会と一緒に村内外から参加できるイベントを開催していく方向で検討していきたいと思っております。また、今年度以降も続けていけるよう、実行委員会を立ち上げて進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（小鹿重一君） 川崎憲二君。

○3番（川崎憲二君） いろいろ村でも考えていると思うので、実行委員会立ち上げという話も聞きました。そこにはいろんな業種というか、議員からでも誰でもいいので、いろいろ皆さんを実行委員会に招集して、ぜひとも成功していただきたいと思います。

また、このモルックについてはタレントでもやっている方もいるので、それと呼んできたりするとまた蓬田というのが世間に広がると思うので、そういうのもやっていったらいいのかなと思いますので、ぜひとも成功させてください。

私からは質問は以上になります。ありがとうございました。

○議長（小鹿重一君） これで、3番川崎憲二君の質問を終わります。

日程第3 一般質問 2番 久慈省悟議員

○議長（小鹿重一君） 日程第3、2番久慈省悟君の質問を許します。久慈省悟君。

○2番（久慈省悟君） おはようございます。

通告をしております2つの質問を始めます。

1番に、自治会内の各種組織の再編に向けた新しい方針はないかということで、入り

ます。

最初に、将来の人口減少に伴って、人手不足により自治会内における各組織の役員を引き受ける方が減少しています。そのために、自治会の機能が低下し、地域活動の防災、また防犯対策等に支障が出るのが懸念される。

そこで、質問しますが、このような課題を踏まえ、自治会をまたいだ組織の再編など、運営体制を見直し、持続可能な組織づくりが求められると思いますが、どのように考えますか、答弁をお願いいたします。

○議長（小鹿重一君） 総務課長。

○総務課長（稲葉正明君） お答えいたします。

自治会は、近所に住む人たちが自主的に運営している住民の皆さんに一番身近な自治組織です。

将来、人口の減少や少子高齢化により役員の成り手不足を抱え、地域の力が低下することが考えられます。

地縁団体の許可を受けた、自治会と自治会が自主的組織の再編については、その団体が所有している山林や土地などの登記の問題や財産の問題があり簡単には進まないと思っております。消防団員が減少して分団と分団が合併して消火や救助活動をしていくことは可能だと思っております。もしそのような状況になりましたら、村として協力していきたいと思っております。

○議長（小鹿重一君） 久慈省悟君。

○2番（久慈省悟君） 総務課長の答弁では、自治会自体の所有する財産ということも述べていましたが、そういう2つの自治会を1つにするという方向ではなく、自治会は一つ一つの単体でこれからも継続してもいいと思います。

ただ、今までの組織、自治会の中に置いた組織のことを申し上げているわけで、例えば今、後期高齢が進んで、もう自家農業から手を引く、そして賃借を交わしてその農地を別な人が耕作しているというのは、皆さん分かっているとおりだと思います。

そういうことになれば、農業人口も減少し、農業戸数も当然減ってきているわけです。そして、当然、各農事振興組合の会員の減少にもつながっていくわけですね。そして、現在農事振興組合がやらなければならない事業等とかそういうのは、水土里保全隊という組織が役務をやっていただいていますから、何とか整備されて、草刈り等に来て、また泥あげ等でも当然整備されているわけですから、そういうところの組

組織を私は申し上げているわけですし、そういうのを自治会をまたいで、後期高齢者の方が結構水土里にも多く会員としておりますから、近い将来、10年も待たないうちにどんどん人口が減って、そういう会議も少なくなりますから、そういう組織を、自治会の組織は、自治会は自治会としてあってもいい、よろしいので、そういう組織づくりでもやはりそういうふうなことを念頭にして考えていかなければならない時代が近い将来来るということで質問したわけですが、そういうことを考えた場合、そう思わないでしょうか。もう一度答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（小鹿重一君） 総務課長。

○総務課長（稲葉正明君） 自治会は自主的組織です。それを全体で考えるというのは、連合自治会等で話し合うべきだと思っております。また、合併に必要な検討をするには、時間をかけて話し合いをしていき、また住民へきちんと説明していかなければならないと思っておりますので、時間がかかるというふうに私は思っております。

○議長（小鹿重一君） 久慈省悟君。

○2番（久慈省悟君） 連合組織もございますけれども、連合がテリトリーとして進めていくわけではございません。行政として、小さくても公である以上は自治体が音頭を取ってかじ取り役をし、連合に働きかける、ここから始まらないといけないと思いますよ。ですから、そういうことで働きかけて、こういう人口減少とともに、こういう組織の強化を図りたいということで、今からそういうシミュレーションというものを考えていかななくてはならない時代に近い将来入るということで考えていかななくてはいけないと思いますので、ただやり取りしてもしようがありませんので、ぜひそういうものを念頭に置いた考えで今後はやはりそこまで考えていかなければならないというのを、行政として考えてほしいものと思います。

次に入ります。2番目に、陸奥湾ホタテのへい死についてお伺いいたします。

陸奥湾内におけるホタテへい死が深刻化し、出荷数量が大幅に減少している問題が昨今報じられていることに伺います。

1番、議会として先般その時点の状況を聞き取りした結果、半分程度がへい死しているということでした。村としては今のへい死被害の状況やホタテの生育状況は把握しておりますか。お伺いいたします。

○議長（小鹿重一君） 産業振興課長。

○産業振興課長（高田一憲君） 村漁協からの情報としては、稚貝段階でのへい死及び春

先までの生育不良により、例年だと4月からの出荷が5月にずれ込んだとのこと。出荷数量が落ち込んでおり、今年度の最終出荷数量を1,500トンと見込んでいるそうです。

入札単価については、過去平均の約2倍ほどの値をつけているところです。また、来年度に向けた稚貝の確保はおおむねできているとのこと。

以上です。

○議長（小鹿重一君） 久慈省悟君。

○2番（久慈省悟君） 今課長の漁港との話の内容というのが報告されましたけれども、私も漁港に聞いたところ、育苗に関しては、この陸奥湾内地域が全てのところでよかった、今までどおりのような稚貝が取れないとかという状況ではなく、全て稚貝が豊富で育苗は満足 of いく回答でございました。

しかし、我が村のホタテ養殖漁師の方々も、半分諦めているのかどうか分かりませんが、もう漁師を辞める方もいるみたいでございす。結局幾ら育てても労力が形にできず、どんどんへい死して出荷数量が落ち込んでいる。たとえ値段がそこそこの値段でも、稚貝を一生懸命頑張って取って、そしてネットに入れてぶら下げてどんどん生育が見込めれば、働く意欲も人間として湧くわけですね。しかし、意欲が湧かないというのは非常に悲しいこととございす。

そういう中で、私の知り合いの漁師ももう辞めたいということも言っている人もいます。現に、その人の心情は、あと数年やってみて駄目なら手を引くというのを、年齢的にも考えてそのような答弁をしたのではないかと思いますけれども、やはり我々行政としても、願わくばきちんと育ててほしいという思いはあるものの、職員の皆さんが大きく育てるのにどうすれば寄与できるかなんて、そういうのは思っていないけれども、悲しいようなことではございすけれども、できればきちんと稚貝が育てて今までどおりの数量が出荷できるというふうになってもらいたいものと思ひますけれども、今のところ、きちんと育ててほしいという願望だけが前に出るだけでございすけれども、次の質問に入ります。

村の対策についてお伺いいたします。

現状の被害状況を踏まえて、今後県等のホタテの支援等の対策が施されると思ひますけれども、村として独自に漁業者への対策というのは考えているのかお伺いいたします。

○議長（小鹿重一君） 産業振興課長。

○産業振興課長（高田一憲君） 議員ご指摘のとおり、近年の陸奥湾のホタテ貝養殖業は、採苗の不振、高水温による大量へい死、中国による禁輸措置など、様々な要因が複合的に影響し、取り巻く環境は厳しさを増しています。

このような状況の中で、当村として現時点での具体策は持ち得ていませんが、7月ぐらいまでの本村及び関係市町村の出荷状況等を見ながら、国・県の支援制度や補助金の活用についても積極的に情報収集を行い、現場の声に耳を傾けながら関係機関と連携し、必要な対応を迅速に行っていききたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（小鹿重一君） 久慈省悟君。

○2番（久慈省悟君） 一般の住民にしてみれば、農業者の方へは様々な村としての助成を考えております。また、漁師も今までには冷害だったときにも助成をしてきました。一般の人に見れば我々には何もしてくれないではないかという、そういう不公平な思いはあるかもしれません。

しかしながら、やはり基幹産業を守るということを考えた場合、何かしら支援が必要ではないかと思しますので、できる範囲内で支援を施すことによって、基幹産業である漁師の漁協側と村側の意思の疎通が取れていくのではないかと考えますので、できる範囲内で結構でございますから、そういう支援策を考えていただきたいと思います。

それで、最後にそのことについていま一度答弁を求めて終わりたいと思います。

○議長（小鹿重一君） 産業振興課長。

○産業振興課長（高田一憲君） 議員おっしゃるとおり、漁業についても当村として重要な基幹産業ですので、また他産業、一般住民への支援という部分でのよりバランスの取れた支援策を構築しながら進めていきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（小鹿重一君） 久慈省悟君。

○2番（久慈省悟君） できるだけそういうバランスの取れた1次基幹産業を守るために、そういう策を講じていただければありがたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。終わります。

○議長（小鹿重一君） これで、2番久慈省悟君の質問を終わります。

以上で、本日の日程は全て終了しました。

本日はこれで散会いたします。

ご苦労さまでした。

午前１０時０９分 散会

上記会議の経過は、事務局長中川孝治が記載したものであるが、その内容に相違ないことを証するためここに署名する。

令和 ７年 ７月 １８日

蓬田村議会議長 小 鹿 重 一

会議録署名議員 森 弘 美

会議録署名議員 吉 田 勉